

## 新型コロナウイルス感染症の軽症者に対する健康観察業務について

令和2年5月8日（金）から東横 INN つくばエクスプレス三郷中央駅にて、埼玉県からの要請により新型コロナウイルス感染症の軽症者に対する健康観察等業務を当院の全面サポートで実施いたしました。埼玉県よりホテル療養者の受入れ基準が見直され、発症後の日数ではなく、個々の症状などをもとに受入れの判断を行うこととしました。また、ホテル療養は退院基準と同様に、症状の軽快が



確認されてから 24 時間後に PCR 検査を実施し陰性であることが確認され、更に 24 時間後に再度 PCR 検査を実施、2 回連続で陰性が確認されたときに終了としました。

1 日の業務フローは AM 8 : 30 から医師 1 名、看護師 2 名で対応しました。主な業務内容は新型コロナウイルス感染症の軽症者等の健康管理(検温、SpO<sub>2</sub> 測定結果の確認、健康状態の確認)や PCR 検体採取、翌日 PCR 実施者の決定、病院受診(入院加療)の判断、急変時の対応等を行いました。また、療養者の呼吸数・心拍数が監視できる「眠り SCAN」(パラマウントベッド社製)を設置し、早期にリスクを発見できるような対応を実施しました。



現在は東横 INN つくばエクスプレス三郷中央駅での受入れは中止となっていますが、当院といたしましては、埼玉県東部地域の中核病院として今後、新型コロナウイルス感染第 2 波、3 波に対応するため院内では準備、対策等を整えています。また、高度な医療と質の高い医療サービスを提供し、地域医療への貢献を充実、発展させてまいります。

# 外来中央処置室の設置

糖尿病内分泌・血液内科 診療部長 橋本 貢士

今年4月から、外来棟3階の旧外来化学療法室に外来中央処置室がオープンしました。今まで輸血、輸液などの点滴、骨髄穿刺、腹腔穿刺、胸腔穿刺などの処置は各科外来診察ブースの裏手にあった処置スペースで行っていましたが、手狭なスペースで、かつ医療スタッフの行きかう中で行われていたため、患者さんには大変ご不便をおかけしておりました。外来中央処置室にはベッド13床をそろえ、スペースも十分に広くとってありますので、患者さんには今までより快適に輸血や点滴を受けていただくことができるようになりました。

輸血は原則予約制で、月曜日から金曜日までは、午前5名、午後5名、土曜日は午前2名、午後2名の予約枠があります。点滴や各種処置も月曜日から土曜日まで午前8名、午後8名の予約枠があります。血液の病気の診断に用いる骨髄穿刺の検査も月曜日と水曜日に午前3～4名、午後4名と原則予約制として外来中央処置室で行うようになりました。この他、緊急の輸血、点滴にも対応できるようになっています。すでに4月には様々な処置で延べ164名の患者さんが外来中央処置室をご利用になり、内延べ76名の患者さんが輸血を、17名の患者さんが骨髄穿刺を受けられました。

外来中央処置室ご利用の流れは以下の通りです（すでに輸血や点滴および骨髄穿刺などの検査の予約がある場合）

1. 自動受付機で受付票をお取りになり、受診している診療科の外来受付窓口へ進んでください（他に、採血、レントゲン、心電図などの検査の予約はある場合は先にそれらの検査を受けてください）。
2. 診療科外来で（診察がある場合は診察後）、会計ファイルをお取りいただき、3階外来中央処置室に移動してください（場所がお分かりにならない場合は、看護師、事務職員にご遠慮なくお聞きください）。
3. 外来中央処置室受付で、お名前、生年月日を確認させていただき、ネームバンドを着けさせていただきます。
4. 処置ベッドにご案内いたします。
5. 処置が終了後、ネームバンドをお外しします。会計ファイルをお渡ししますので、1階会計へお進みください。

外来中央処置室をご利用いただいた患者さんから、ゆったりとした気持ちで輸血を受けることができましたという声をいただいています。

外来中央処置室では、患者さんがより安心にかつ快適に輸血、点滴および様々な処置が外来で受けられるようにサポートしてまいります。



# 通院治療センターの開設

2020年3月、従来の化学療法室が旧D3病棟に移転し、『通院治療センター』として新たにオープンしました。

近年、がん薬物療法は急速に進歩し、従来の細胞傷害性のいわゆる抗がん剤に加え、がん細胞の増殖に関わるタンパク質や、栄養血管を増殖させるタンパク質などを標的にしてがんを攻撃する分子標的薬が普及しました。加えて、免疫チェックポイント阻害薬が承認され、真の免疫療法と呼ぶに値する治療が確立されました。

また、がんの生存期間も著しく延長し、治療のみならず患者さんの生活の質を維持することが医療者に求められるようになってきました。

このような理由で化学療法というと抗がん剤を連想させる言葉の代わりに、入院すること無く、日常生活を続けながら治療が受けられるようにとの思いを込めて『通院治療センター』と改称させていただきました。

安全キャビネットも増え、薬剤師も増員となり病院全体の化学療法のキャパシティも拡大しました。専用の面談室も備え、がん薬物療法に関する看護師や薬剤師によるオリエンテーションや相談も今まで以上に受けやすくなっています。また旧化学療法室では15床しかなく、予約枠が少なく皆様にご迷惑をおかけしましたが、60床に増床しましたので利用しやすくなったと思います。



けしましたが、60床に増床しましたので利用しやすくなったと思います。

今やがん薬物療法の主流は外来通院となっています。新たなレジメンが増える中、スタッフも知識の更新をかかすことなく、快適で安全な治療を受けていただくよう努力して参りますので、是非とも通院治療センターをご活用ください。

## 新内視鏡センターについて



去る3月上旬、3号館2階に新しい内視鏡センターがオープンしました。

検査室は以前の2倍、3室から6室になりました。検査室1は内部もゆとりを持って設計されており、緊急内視鏡や処置内視鏡に対応できるようになっています。他の検査室も、旧センターに比べて扱いやすい構造になっています。また、放射線透視室との距離も近くなり、透視を使う胆道系内視鏡（ERCP）や小腸内視鏡施行時の連携も取りやすくなりました。カンファレンス

スルームには多面モニターを備え、各検査室の画像をチェックすることができます。

内視鏡センターは常にスタッフ不足に悩まされて来ましたが、今春看護師2名・臨床検査技師1名・技術員2名が増員されました。新しい人材が加入したことで、全体が非常に活性化しています。新メンバーにはこれから経験を積んで、数多くの種類の検査・治療の介助に対応していただく必要はありますが、早急に5部屋・6部屋の稼働を目指していきたくと思っています。さて、内視鏡室ではスクリーニング内視鏡以外に基幹病院ならではの特殊な内視鏡も数多く行っています。消化器系では、消化管癌の粘膜剥離術（ESD）、超音波内視鏡を用いた手技（膵や粘膜下腫瘍の穿刺組織診断・重症膵炎後膵膿瘍ドレナージ・胆道ドレナージ）等、呼吸器系では超音波気管支鏡、経気管支肺生検、気管支温熱療法等があります。

これらの実績を踏まえて、教育と研究にも注力していかなければなりません。消化器内科・呼吸器アレルギー内科研修の一環として、充実した研修環境の構築をしたいと思っています。

研究では、胆道ステントに関する研究、超音波内視鏡下膵線施術に関する研究、画像強調内視鏡に関する研究などが計画・実行されています。

最後に、我々に最も求められるのは、安全で確実な検査・治療です。常にそのことを忘れずに日々診療にあたっています。



## 令和元年度埼玉県特別機動援助隊合同訓練 (埼玉 SMART) の実施について

令和2年2月12日(水)午前10時から坂戸市総合運動公園(ゴルフ場想定)において、近隣の霞が関カンツリー倶楽部で東京五輪ゴルフ競技が開催されることから、大会中の集中豪雨や落雷、突風に伴う災害を想定し、関係機関の連携体制の確認を目的として行われました。訓練には消防機能の役割を果たす機動救助隊(11消防機関)、災害派遣医療チーム(18医療機関)、県防災航空隊で構成する埼玉 SMARTをはじめ、近隣消防本部、負傷者役など計約500人が参加しました。

今回の訓練は、消防機関及び医療機関の連携強化のため、SMART 指揮隊及び統括 DMAT を中心とした組織的な活動の重視、多数傷病者発生現場における迅速かつ適切なトリアージの実施や傷病者の円滑な搬送医療機関の決定と搬送調整を実施しました。このような実践的な訓練に参加することで、他の DMAT チームとの情報共有や消防との連携を図れ、実際の災害時の活動にもつながる訓練となりました。



## 埼玉医療センター消防訓練(夜間想定)を実施

2月26日(水)午後6時より、4号館3階ME室横多目的トイレを出火元とし、夜間を想定した消防訓練を実施いたしました。

今回も、事前に訓練の進行を伝えないブラインド型訓練とし、4号館の火災感知器を発報させ火災受信機や受信機以外の場所でも火災の状況を得られる副受信盤の動作確認を行いました。また、被災状況報告書の提出や負傷者の避難搬送を実施しました。

訓練終了後、玉野副院長より「いつ起こるかわからない災害や火災ではあるが、今後も準備を怠らずに今回の訓練を次に生かして精進してほしい」とお言葉をいただきました。また、災害対策委員長の松島教授からは「マニュアルに則した、夜間帯の避難経路の動線確認や自衛消防隊の役割確認、被災状況報告書の提出、本部運営など一連の動作確認は検証できたと思います。訓練後、アンケート調査を実施し、みなさまのご意見をもとに今後の訓練に生かしていきたいと思います」とコメントをいただきました。

今後とも自衛消防本部長を中心とし、防災活動に努めていきたいと思っております。



## エコキャップ回収活動報告書

当院では社会福祉及び環境保全に貢献することを目的として、平成24年9月から、院内で消費されたペットボトルのキャップをNPO法人「キャップの貯金箱推進ネットワーク」を通じて分別・回収し、そのリサイクルによる売却益の中から発展途上国へワクチンや医療物資等を送る「エコキャップ回収活動」を開始しておりますが、直近のご報告として平成31年4月～令和2年4月分の回収状況及びワクチンへの換算は下記のとおりとなりましたのでご報告致します。

〈平成31年4月～令和2年4月〉

重量 49.89kg 個数 21,452個 ポリオワクチン(小児麻痺) 24.9人分

キャップの回収BOXについては、1号館1階ローソン前など計2箇所の自動販売機脇に設置し、教職員並びに患者さん等、来院者の方々にご協力を呼び掛けております。

私たちでも困っている人たちのために出来ることがあるという思いで、より多くのキャップを集めたいと考えておりますので、引き続き皆様のご協力を宜しくお願いします。

埼玉医療センター庶務課

## 病院への手紙にお答え致します

### \* 入院時の荷物置き場について

入院時の手続きの際に荷物を置くスペースが少ないため、スペースの検討をしてほしい。

#### お答えいたします

入退院受付には荷物置き場の棚を設置しましたのでご利用ください。なお、退院会計については棚を置くスペースの確保が困難であるため、入退院受付に設置棚をご利用いただくよう患者さんにご案内いたします。(入院課より)

### \* 病院経路への案内表示について

東武線の新越谷駅で下車して病院に向かうとどちらに向かって良いのか方向が分からないため、案内表示を出してほしい。

#### お答えいたします

案内表示については東武スカイツリーライン新越谷駅の改札を出た階段に設置しております。また、病院ホームページ等のアクセス案内にて駅と病院の位置関係が分かるよう、案内しておりますのでご参照いただけますと幸いです。(庶務課より)

### \* 待ち時間の座席について

こころの診療科において、待合場所の椅子が少ないため、体調が悪い時には立っているのが辛いことがある。

#### お答えいたします

令和2年6月より診療科の移転により以前より広いスペースで待ち時間をお過ごしいただけるようになりました。(こころの診療科より)

### \* 入院中の看護について（お礼）

人生で一度も手術したことがなかったため恐怖心がありましたが、医師や看護師の温かい声掛け、励ましが心強く感じられ安心できました。ありがとうございました。

### \* 外来受診について（お礼）

先生も優しく、受付で会計ファイルを渡す職員も明朗な対応で、検査時も対応するスタッフが優しく、気持ちよく受診できました。混雑状況など掲示板の表示が丁寧であると感じました。

### \* 駐輪場の利用について（お礼）

駐輪場を利用した際に雨上がりでサドルが合濡れていたのを、タオルで拭いていただきました。ありがとうございました。

## 病院への手紙について

患者さんから寄せられる「病院の手紙」につきまして、病院長をはじめとする当院幹部役職者が目を通したうえで、該当部署に回答及び今後の対応などを報告させています。

また、隔月開催している医療サービス委員会において改善案の計画・立案を行っておりその中で改善できるものは早急に対応し、検討を要するものは少しでも患者さんのご要望にお応えできるよう日々努力しております。

この「病院への手紙」については、性質上多くが匿名であることから、該当部署から直接ご本人に回答することが困難であることもありますが、皆さまからのご意見を当院の貴重な財産として真摯に受け止め、より良い病院づくりの一助にしたいと考えております。

なお、皆さまからのご意見、そしてその回答については、この病院だよりを通じて一部ご紹介させていただきますが、それ以外のものにつきましても、現状において可能な限り然るべき対応を行っていることをご理解賜りたいと思います。